

ジャッジズトレーニング（第3回）開催報告

神奈川県横浜市 松下 卓生

今年も、良く晴れた暑い初夏の日曜日になった。

駅を降りて街道沿いをしばらく歩き、橋を渡つてどこにでもあるような住宅街を進んでいくと、突然花菖蒲の池の中にそびえたつ趣のある平屋建てが見えてくる。さすがに暑い



写真1 当日の開花状況



写真2 協議状況

とみて奥の温室の中ではなく外に日除け棚が拵えてあり、その下に数人の役員の方が涼みながら談笑されていた。

昨年は参加者も少なく、私が一番に訪れたけれども今年は皆さん早々と参集され、参加数も7人と多くもないが少なくもない人数での開催となった。

今回の目的は、三英花の内花被（耳）の形状を分類することである。代表的な内花被（耳）の形状を備えている花を畠から採取し、どの形状に該当するのかを協議した。

当日、畠から採取できた花の内花被（耳）は、以下の通りに分類し、それぞれ鑑賞上の優劣を○△×で記した。

1. 鑑賞上優れているもの



写真3 「立耳」(たちみみ)



写真4 「丸耳」(まるみみ)

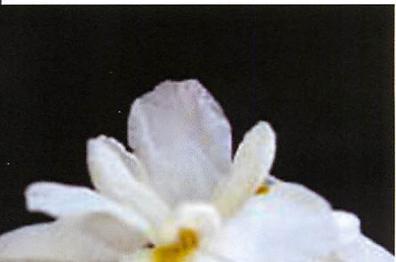


写真5 「受耳」(うけみみ)



写真6 「熨斗耳」(のしみみ)



2. 鑑賞上、やや優れていると思われるもの



写真7 「短丸耳」(たんまるみみ)



写真8 「笹耳」(ささみみ)





写真9 「柳耳」(やなぎみみ)



写真10 「匙耳」(さじみみ)

3. 鑑賞上、劣っていると思われるもの



写真11 「覗き耳」(のぞきみみ)



写真12 「冠耳」(かんむりみみ)



写真13 「倒耳」(たおれみみ)



写真14 「流耳」(ながれみみ)

次に蕾の着き方について分類した。

1. 蕾までの節数をかぞえた。

節数が2つの種類は、節数が3つの種類に比べて草丈が低いことが分かった(写真15の左)。



写真15 節数の比較

側枝の着き方も主枝と同じ高さのものと、側枝が短いものがあった。花菖蒲園で植栽される場合、主枝と側枝が同じ高さの方が、主枝の花が萎んだ後に花がらをとらなくても側枝が開花すれば目立たないので、庭園用品種として利用価値が高いと言える。



写真16 側枝が主枝と高さが近いもの



写真17 側枝が主枝と高さが近くないものの